

留萌地方沿岸のニシン漁場における諸用具の呼称と解説

標準的呼称	漁場での呼称	説 明	備 考
あか汲みポンプ	アカカキポンプ	船に浸水した海水を汲み出す木製角筒型の吸上げ式ポンプ。漁場自作のものが多い。	船付属品
あか柄杓	アカカキヒシャク	船に浸水した海水を汲み出すひしゃく。主として浜大工が作成した。	〃
あげ	アゲ	網修理作業で網目を新しく編むとき、網の目の大きさを揃えるため竹又は木で作られた駒（定規）。	網修理用具
麻網	アサアミ	ニシン網の中で特に強度を求められる、小舌・魚取建揚げ・枠網・袋網・大たもの網などに使用、当地方では主として越後金引麻が使用された。一時刺網として野州麻網が使用されたこともある。	(材料名) 網具
麻糸	アサイト	麻を原料として作られた糸。主として大麻の繊維で作ったもので野州麻・上州麻・信州麻・越後麻などが使用された。	〃 〃
足棚	アシタナ	網の下端に結付又は絡み付けた網。アバ縄・カニ縄・藁網・マニラロープなどが用いられ沈子を結付する。沈子網、アシ網ともいう。	網付属品
穴堀具	アナホリ	浜や陸の設備を作る時や、身欠ニシンのナヤを作る時、または柱を立てる時など土中に穴を掘る用具。	漁場共通用具
あば棚	アバタナ	浮子（アバ）を結付するために、網の上端に結付又は絡み付けた網。アバ縄・トワイン・マニラロープなどが用いられた。浮子網、アバ網ともいう。	網付属品
あば縄	アバナワ	三子より成る径 1.5～ 1.8cmの密度の高い藁縄。比較的強度を求められる網端などに使用され、手網のアバ棚・足棚・げんげ・刺網の中ダンプ・捨て網・錨網その他に使用した。	(材料名) 網具
油釜	アブラカマ	より精度の高い魚油を採取するため、魚油を加温する釜または魚油を一時保管するための釜。ニシン釜の古いものを使用した。	加工用具～粕製造用具
油缶	アブラカン	魚油を入れる一斗（18ℓ）入りの缶。石油の空缶なども使用された。木箱に1斗缶2ヶが納められた。を石油箱と呼び生ニシン10貫入箱として利用された。	〃
油樋	アブラトイ	筒流しから油槽（油八合）まで、圧搾時の水及魚油を流す木製の樋。小丸太に溝を掘って作る自作用具。	〃
油八合	アブラハチゴ	魚油を溜める木槽。漁場では油キチとも呼び槽内を2～3分割し、溢れても魚油が流れ出ないよう工夫されている。	〃

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
網型	カタ	ロープ・浮標で枠を作り、沈子（土俵・錨など）で海上に固定する。ニシン角網は台網類に分類されるのは、この型（台と呼ぶ）に網を取り付けるからである。	網具
網修理鉋	アミキウリハサミ	網修理用の刃渡りが小さい握り鉋（和鉋）。	（用途名）網修理具
網印	アミジルシ	網の所在を知らせるための浮標、手網建元などに設置される。浮樽や樽、ボンデンやガラス玉などが使用された。大型の浮標。	漁撈具～網付属品
網針	アバリ	網修理のための糸を補給しつつ網目を作る針。網地と同じ糸を巻き（巻くことを糸を掛けるという）網目をすくいつつ新しい網目を作る。	網修理具
歩み板	アユミイタ	渡り板ともいう。汲み船から陸に渡して又、棧橋や廊下の梁に渡してモッコ背負いの渡り板に、身欠ニシンナヤの渡り板などに使用する巾広の厚い板。	漁場共通用具
洗い鉤	アライカギ	身欠ニシンを作る過程で、繋ぎつらに繋いだニシンを運ぶ鉤。海水を入れた水槽でこの鉤に掛け吊るしたままニシンを洗うのでこの名がある。	加工用具～運搬具
洗い八合	アライハチゴ	洗いキチとも云う。海水を満たし、洗い鉤に吊るしたニシンを洗う木製の水槽。	〃～身欠ニシン製造具
安配棒	アンベボウ	先端がY字型になった長さ3m程の棒。枠網から汲み船に大たもでニシンを移す時、大たもの操作を助けるための棒～大たもを押し動かす役割をする。	漁撈具～沖作業
錨	イカリ	船の繫留、又は網の固定に使用。浜では四ッ爪錨（和錨）をいかりと呼び二本爪カンザシ付きのものを改良いかり又はアンカーと呼ぶ。	船付属具
錨石	イカリイシ	ナツ石よりやや重い径20cm内外の石。これを針金、トワイロープで編んだ袋に入れて用いる。刺網一放し毎の間に取り付け捨縄（イカリ網ともいう）及び浮子を付ける。	網付属具
錨網	イカリツナ	かかり網ともいい、投錨時の繫留用網。	（用途名）漁撈具～船付属具
石割槌	イシワリ	海浜整備の際邪魔になる岩や大石を取り除く時、石を割る大型の鉄槌。	漁場準備用具
磯舟	イツフネ	保津船に伴い陸との連絡、網の維持・管理の他、沖作業の小廻り仕事に従事する小型船。むだま作りのものと敷作りのものがある。	（舟型名）漁撈具～船
糸	イト	原料繊維を引き揃えて、必要の太さにして一定の方向の撚りをかけて繊維を長く連続させる。それを更に数本撚り合わせた太さ3mm程度のもので糸という。 （伊吹群作／『漁網集覧』）	（材料名）網～網付属具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
糸巻台	イトマキ	枷になっている網修理用糸を巻き取る台。枷糸をかける上部のアームが回転する。	網修理具
岩糸	イワイト	苧麻(カラムシ・マオ・シロオなど)から作られた繊維。柔軟で耐久力、弾力性があり緑網・ハカイ網・タモ網など、強度を必要とするものに使用された。	(材料名) 網～網付属具
ウインチモッコ	ウインチモッコ	ウインチ設備のある港内でのニシン揚陸作業では、汲船に数枚のウインチモッコを敷き、その上にニシンを汲み入れてウインチで揚陸した。麻網で強固に作られた。	漁撈具～沖作業具
浮代	イタアバ	根網・掛網を浮かすために網に結付する。その形により板アバ・丸アバなどともいう。巾又は径10cm、厚さ5cm、長さ70～80cm程のもの。	網付属具
浮筋	ウキスジ	浮子を連続的に結付した網。	〃
上継ぎ網	ウツナギ	根網に連なる根ダンプから手網・伸し網に掛ける網。上継ぎ掛網ともいう。	(用途名) 漁撈具～網付属具
嬰兒子	エジコ	形が嬰兒子に似ているため、そのままの名が付いた。ブドウ蔓などで籠状に作り中に石を入れ沈子とした。使用目的は土俵と同じ。	網付属具
えびこ	エビコ	筵の外にこぼれた魚粕を掻き集める器、粕拾いと対になる。又身欠ニシン製造過程のニシンツブシの時のササメを掻き寄せるなどにも用いる。	加工用具～粕製造用具
えびざる	エビザル	根曲り竹を編み組んで作られた箕形の笊。	〃 ～運搬具
えびり	エビリ	粉碎機で粉碎した魚粕を筵の上に広げる用具。	〃 ～粕製造用具
塩蔵樽	エンゾウタル	塩蔵ニシンを漬け込む樽。酒醸造用の大きな樽なども利用した。	〃 ～貯蔵具
大あば	クチマエアバ	口前ダンプとも呼ばれる大型のアバ。軀網の口前棚網に取り付けられ口前網開閉のサイ繩を通す。滑車が組み込まれているものが多い。	網～網付属具
大たも	オオタモ	枠網から汲み船にニシンを汲み移すためのたも。一度に約100kgニシンが入る。汲みたもともいう(ニシンを汲む作業をたも立てという)。	漁撈具～沖作業具
大たも構成部品	タモアミ	岩糸で作られた径90cm、長さ120cm程度の袋網。たも輪に取り付けられる。	〃
〃	タモダイ	大たもの柄、長さ約7m以上。松・ナラなどの良材を割り採りして作られる。	〃
〃	タモワク	たも台の先に取り付ける輪枠。強い木の幹の一部と枝を利用して作る。昭和20年代からは鉄製のものがあつた。	〃

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
岡持	オカモチ	沖泊り・沖作業のとき、副食・食器などを入れて沖に携行する持手付の箱。	漁撈具～沖作業具
沖樽	ミズタル	飲料水を入れて、沖に携行する樽。	漁撈具～船付属具
沖灯	オキトウ	沖泊り（船泊）の時沖に携行する灯火具。主としてハリケーンランプ・手携ガス灯などが使用された。	”
沖箱	オキバコ	船上で使用する諸用具を納めて、沖に携行する用具箱。網修理用具・刃物・捨皮・トイノミなどが入っている。	” 漁撈具～沖作業具
沖弁当箱	オキオハチ	沖泊り・沖作業の時、飯を入れて携行した木製箱型の飯入れ。	
起し船	オコシブネ	桡船に比し、やや小型で軽快に造られている。起し立場板が製作時に取り付け固定されているものがある。網を手繰ってニシンを寄せる船。	（用途名）漁撈具～船
尾廻し	オマワン	桡網の重量を支えるため、網の外側を廻して桡船の胴の間前後の横物に止める、太さ約12～16mmの網。	漁撈具～網付属具
カーバイトランプ	ガストウ	カーバイトを使用、アセチレンガスを発生せしめこれを誘導・点火して、照明を得る用具。	設備～共通用具
カーバイトランプ 構成品・付属品	カーバイトカン	カーバイトを保存するための容器。ブリキ製。	”
”	カサ	主としてアルミニウムで作られ、下部にホヤを取付ける。上部には持ち又は吊り下げるための弦があり、笠の上にガス管を通す穴がある。	”
”	ガスタンク	カーバイトを入れ水滴を落下させ、ガスを発生させる銑鉄製の容器。	”
”	ガストウリング	2 m程の棒（早切棒）の先にガス灯のホヤの部分が入るよう針金の輪を取付け、これにセキ網を巻き、輪の中にホヤを入れて立てる（照明スタンド）。	”
”	クダ（ホース）	ガス発生タンクから火口に連るゴム製の管。	”
”	ヒグチ	バーナーとも呼び、カーバイトランプの発火口。二股状の真鍮製品。	”
”	ホヤ	ガラス製、径約20cm、深さ約10～12cmの鉢型。	”
”	ホヤホゴバコ	ガス灯（カーバイトランプ）を使用しない時、この箱の中にホヤ部を入れて破損を防ぐ。	”
”	ミズオトシ	ガスタンクと一体化し、ガスタンクの上部に組み込まれた保水筒。水滴の量を調節する機能を備えている。	”
權引繩	ケビキ	船の上棚小縁上に付けられた權摺の穴に通し、權の支点となる繩。輪状の繩に權を通して權を漕ぐ。	漁撈具～船付属具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
粕突棒	カスツキボウ	粕建（大判の筵を縫い袋状に作られた俵）に魚粕を詰め込む時の突き棒。	”
カズノコナヤ	カズノコナヤ	カズノコ乾燥棒（折）を並べる杭・桁・早切で作られた木柵棚。	加工用施設
カズノコはちごう	カズノコハチゴウ	カズノコの血合を除去するため、海水で晒す時の木製の水槽。キチとも呼ぶ。	加工用具～身欠ニシン製造用具
粕拾い	カスヒロイ	筵から外にこぼれた魚粕をエビコで集めて拾う塵取状の器。エビコと対になる。	加工用具～粕製造用具
粕篩	カスフルイ	魚粕の粒子を揃えるための篩。	”
かすり	カスリ	油槽上層部の油の層を掬い取る器。掬い取った魚油を缶に入れる漏斗と対になる。	”
型切鎌	カタキリカマ	漁期が終了し網型を撤去するとき、沈子として設置した土俵に取り付けた根網を切断する用具。木の股を利用し鎌の刃を取り付けてある。	漁撈具～沖作業具
型網	カタツナ	網型を形成する楕型に張られた網。主として太いマニラロープが使用された。	（用途名）漁撈具～網付属具
滑車	ブロック	木製・鉄製、大小数種類があり、船の揚陸に、網乾作業その他重量物の移動に使用。	漁撈具～陸作業具
金挺子	カナテコ	岩に穴を穿ち又は動かすための棒。その形で六角棒・八角棒などとも呼ぶ。	漁場準備用具
かに縄	カニナワ	三子よりなる径約9～12mm左撚りの密度が高いワラ縄。アバ縄の細いもので、手網・実子網などに使用された。	（材料名）漁撈具～網付属具
樺火台	ブランタン	2～3cm巾の鉄帯で作られた火籠。地上180cm程の高さに備えられ、白樺の皮（ガンビの皮）を燃料として焚く。夜間作業の照明具。	漁撈具～陸設備
釜前装置	カママエソウチ	煮沸したニシンを圧搾脱水する装置。浜ではこの装置の名称を聞くことが無い。据え付けられたニシン釜周辺で使用される用具を一括して釜前用具と呼ぶ。	加工用具～粕製造用具
釜前モッコ	カマタキモッコ	魚粕製造の原料ニシンを廊下から釜前のニシン流し台まで運ぶモッコ。魚粕玉の大きさを整え揃えるためこのモッコが計量の役割を果す。	加工用具～運搬具
通船	カヨイブネ	ニシン漁場では通い船の名称はあまり聞かれないが、カクダイ佐賀漁場の日誌の中に記録されている。小型川崎船で陸と沖の船（沖泊の保津船）との連絡、港の中でツブ買船との連絡等に使用。	（用途名）漁撈具～船
硝子管	ガラスカン	管の先端にゴムボールの付いた径約1cm、長さ約50cmの大型スポット状の管。缶の中の魚油を吸い上げて、点検する。	加工用具～粕製造用具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
改良錨	カイリョウイカリ	アンカーとも呼ぶ二ッ爪カンザシ付の錨。船の繫留などのほか、小型の定地網の設置や、ニシン漁場では時化などで網型を流失しての臨時・緊急投網時に使用した。	” ～網付属具
神楽棧	カグラサン	移動用の船巻揚用具。船を陸に揚げるとき杭（カヘ）を打って固定して使用する。	漁撈具～陸設備
神楽棧構成部品	ステマキ	胴木に2～3回巻き付けた巻網の端を、揚陸に従い遠時巻き取るための用具。	”
”	ダイ	ウマということもある。胴木を固定する木杵・台角・カンザシ・男柱・座板・笠木からなる。	”
”	ドウギ	胴木下部の凹みに、巻き網（ワイヤーロープ）を2～3回巻き胴木を廻して船を揚陸する。巻き胴ともいう。	”
”	フクロヅナ	巻き網の先端に結付。揚げる船の床又は横物や貫抜、時には舳などに掛ける輪（フクロ）の付いたワイヤーロープ。	”
”	マキゲタ	胴木に明けられた穴に通して胴木を廻す桁。丈夫な小丸太が使われる。巻き棒ともいう。	”
”	マキヅナ	船を巻き上げる網（ワイヤーロープ）。	”
掛け網	カケヅナ	根網に連なる根ダンプから役ダンプに至る網。太めのロープが使用され、継ぎ網ともいう。	（用途名）漁撈具～網付属具
掛矢	カケヤ	船の揚げ降ろしにコロを使用する時、回転進行の方向を修正する大型の木槌。又杭打ち作業など広く使用された。	共通用具
粕皮	カシワカワ	網の強度を増すため、澁掛け・網染めを行うがその材料として使用された。採集後2年程乾燥し粉末にして釜に入れて約二昼夜煮た汁に網を浸す。	網具～関係品
粕桶	カスオケ	粕建に魚粕を入れるための用具。箕を使用することもある。	加工用具～粕製造用具
解粕機	カスクダキ	玉切包丁で切り分けられた粕玉を粉碎する器。上部の箱に粕玉を入れ、ハンドルを廻して魚粕を粉碎する。	”
かすがい網	カスガイ	網型の沖及陸側に平行する網型網に直角に張られる網。やや四角形の網型の上及び下（かみ及びしも）の両辺を形作る網。	（用途名）漁撈具～網付属具
粕漏斗	カスジョウゴ	粕建に魚粕を入れるための用具。	加工用具～粕製造用具
粕建	カスタテ	大判の筵（建筵）の両端を合わせて中間縄で巻き縫いし、木口を棧筵（口筵）で整えた俵状の具。	加工用具～粕製造用具
粕立鈎	カスタテカギ	魚粕乾燥の過程で、1日数回筵上に広げた粕を片方に寄せて広げ直す。この時筵の片方を持ち上げるための鈎。	”

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
硝子玉	ガラスダマ	小型（径約12cm以下）のものは網の浮子として、又大型の（径約30cm内外）のものは浮標として使用。	漁撈具～網付属具
絡み苧	カラミノウ	網と網又は網相互に巻き絡みする時に用いる糸。麻糸・綿糸・トワイン・岩糸などがある。	（用途名）漁撈具～網付属具
鑑札	カンサツ	ニシン沖揚作業に不特定多数の人夫（手間取という）を使役するため、雇用時にこの鑑札を渡し作業終了時に賃金として渡すニシンの現物と引き換える。	漁撈具～陸作業具
がんだ	ガンタ	爪と鉤を備え槌子の原理を応用した丸太材を動かす用具。ガンタを利用して行う作業を「丸太巻」という。	漁場準備用具
木槌	キツチ	船内に入った海水を排出するために船底にあげられた穴（蛇の目穴）の栓（蛇の目）を打つための小型の木槌。	漁撈具～船付属具
給理苧	キウリソウ	網を修理するための糸。	（用途名）漁撈具～網付属具
魚粕圧搾具	(1) トリエ	キリン式又はジャッキ式と呼ぶ、回転式圧搾具を用いるとき、圧搾具（キリン）を取り付ける枠。 ・男柱～8寸角×9尺＝2本　・笠木～9寸～1尺角×12尺＝1本　・座角～5寸角×12尺＝1本 ・カンザシ～3寸角×3尺＝2本で組み立てられる。	加工用具～魚粕製造具
	(2) シメダイ	ロクロ式又は槌子式と呼ぶ圧搾具。締網を用い、ロクロの回転で網を巻き圧搾する用具。男柱・絞り木・座角・カンザシ・帆板・胴木・網・槌子棒・又木（マツカ）で組み立てられる。昭和25年頃まで使用された。	〃
圧搾具の構成部品と付属品	アブラヌキ	筒流しに据えられた搾筒の中心部に置き、圧搾時の脱水を容易にするための円錐型の透し筒。銑鉄で作り高さ約35cm、下部の径約12cm。	〃
〃	キリン	ジャッキともいい、搾筒の中のニシンを圧するための螺旋のポート。下部に回転させる槌子棒を通す穴がある。	〃
〃	キリンドウ	鳥居・台を使用せず、搾筒の中心に螺旋のポートを立て円形の把手を回転して圧縮する開き筒。昭和15年頃より使用された。	〃
〃	テンカイドウ	角形上部のやや広い搾筒。圧搾脱水後搾筒を回転（ひっくり返す）し、中の粕玉を抜く底板のある筒。	〃
圧搾具の構成部品と付属品	ドウ	鉄又は木製透し作り、この中に煮沸したニシンを入れ、上から圧力を加えて脱水、魚粕玉を作る。ニシン釜1枚に搾筒2ヶを備えるのが普通である。	加工用具～魚粕製造具
〃	ドウナガシ	厚板で作られた120cm角程度の筒を据える台。圧搾時の水・魚油が流れるよう四囲に溝をうがち1ヶ所から油樋に落ちるように作られている。	〃

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
〃	ドウブタ	厚さ約6cmの60cm×60cm内外の板に棧を取り付けた蓋。蓋の上置き、筒枕を重ねて圧縮する。	〃
〃	ドウマクラ	太さ約15cm角、長さ約30～35cmの角材。圧縮時の当て木として2～3個を備う。	〃
〃	ドウワク	搾筒に煮沸したニシンを入れる時、搾筒の上辺に補助的棒として置き、圧縮が進み中のニシンが搾筒の上辺以下になったら取り外す。	〃
〃	ヌキドウ	角及び丸形、上辺同寸か底部のやや広い底板のない筒。圧搾脱水後、搾筒を上を抜き取る。	〃
〃	ヒラキドウ	半円型の側板2ヶで組立て、片方に蝶番を付しもう一方に取手・カンヌキを取付け、圧搾脱水後カンヌキを外して搾筒を左右に開いて粕玉を出す。	〃
〃	ムシロフタ	搾筒に入れられたニシンの上に置く蓋。筵2～3枚を重ね、70×70cm程の大きさに中間縄で縫った座布団状の筵。	〃
管アバ	クダアバ	浮子のこと。桐アバとも呼ぶようにその殆どは桐材である。太さ約8～10cmの小径木を約15cmに切断、芯の空洞部を利用して網を通す。	漁撈具～網付属具
口前滑車	クチマエクルマ	大アバ口前アバに取り付ける滑車。口前網を開閉するサイ縄を通す。	〃
口前網	サイナワ	網口の開閉を司る網。口前網下辺部（上棚網）から口前大アバの滑車を経て棹船に至る網。	（用途名）漁撈具～網付属具
汲み桁	クミケタ	棹船と汲船の間隔を保ち固定するための角材。棹網の縁網をこの桁に結付したものを入れニシンを汲み出す口とする。	漁撈具～沖作業
汲み船	クミブネ	用途名。棹船や起し船からの転用したものもあり、一時胴海船・ヒラタ船が使用されたこともある。網からニシンを汲みあげ陸に運ぶ船。	（用途名）漁撈具～船
縁越し網	クリコシ	網起し作業の時、起し船の移動を容易にするために、網型を入れるとき沖側と陸側に併行して張られる2本の網。	（用途名）漁撈具～網付属具
車權	クルマゲ	羽先・腕木から成る權。小型船の推進用に用う。船の口縁の穴にタカマ（木栓）を打ち立て、それに權腕の穴に通し、これを支点として漕ぐ。2本1組。	漁撈具～船付属具
げんげ	ゲンゲ	伸し網と手網を固定するため夫々の手網のアバ棚に取り付けられる網。片方の索端を小さな袋に作る。	漁撈具～網付属具
小網	コアミ	夏網ともいい、ニシン漁期終了後雑魚漁を目的に設置する小型（規模の小さい）定置網。	〃 ～網

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
子叩き棒	コタタキボウ	網に付着したカズノコ（フリコ）を叩き落す棒。弾力のあるブドウ蔓などを90cm程の長さに切って使用する（この作業の時の囃子を「子叩き音頭」という）。	陸作業具
こもて	コモテ	シナの木の皮で燃った網。	（材料名）漁撈具～網付属具
コロ	ゴロ	船の大きさに合わせて、径・長さを定めて作られた堅木の転木。	陸設備用具
竿秤	サオバカリ	製品計量用具。漁場では30g・20g・16g計量のものがあった。	製品出荷関係用具
作業灯	サギョウトウ	船上・陸上での夜間作業に用いる灯火具。カーバイト・石油・ローソク等を燃料とした手提灯、安全灯（ハリケーンランプ）など。昭和10年代になって懐中電灯・文化提灯などが使用された。	共通用具
サキリ	サキリ	主として身欠ニシンを製造する時、繫いだニシンを吊るす細い棒材。根（元口）を三面に削り回転を防ぐ。成長の途中で伐採するので早切（さきり）という。	加工用具～身欠ニシン製造具
ササメ搔	ササメカキ	ニシンツブシ作業で取り除いた鰓や内臓（これをササメという）を纏め集める用具。エビコと同型。	〃
刺網	サシアミ	ニシンの回遊するところに張り、網の目に掛ったニシンを漁獲する網。綿・麻があり、留萌地方のものは通常50目掛10間切を1把とし5把で1放し・5放し単位（これを一切りという）で投網した。	漁撈具～網
刺網構成部分品	アミテボ	網のアバ棚及び足棚を、網地より左右90cm程度長く取りこれを網テボと呼び、テボを相互に結付して網を連結した。	〃 ～網付属具
〃	アルケダンブ	5放をもって1切といい、それが投網の単位で、その1切の網の両端の中ダンブに約180cmの捨て網を付けて結付する浮標。自家の網を識別する特徴を持たせ、ボンデン・立ダンブと呼ぶ浮標なども使用された。	漁撈具～網付属具
〃	ステツナ	碇石に取付け、足棚・アバ棚を経た網の末端に中浮標（中ダンブ）を取り付ける。網は主としてアバ縄（ワラ縄）が使用された。	〃
〃	ナカダンブ	1放毎の間に取付けた捨網の末端に付ける浮標。その形によりナンバダンブ・ニシメダンブの呼称がある。	〃
〃	ナツイシ	径15cm内外の自然石を網又は縄の網目袋（これをナツ袋という）に入れたもの。網一把毎の間（網テボの結び目）に付けて投網する沈子。	〃

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
刺網構成部分品	ボンデン	網や延縄の両端に取り付ける浮標。竿の中間に浮子と捨て網を取り付け、下部の竿端に重り（沈子）を吊るし、その重さで竿が海面に立つように作られた浮標。竿の先に旗などを取り付けて自家の網の目印とする。	漁撈具～網付属具
指し竹	サシタケ	長さ約40cm径、約1cm程の細竹の先端を斜めに切り、これにつなぎつらを指し折り曲げ、指し竹に添えてニシンを繋ぐ。	加工用具～身欠ニシン製造具
指し棒	サシボウ	竿秤で計量するときに秤を吊る棒。相当の重量がかかるため、強度の高いものが必要である。30斤秤には古い秤の竿が利用された。	製品出荷関係用具
早權	サツカイ	羽先・腕木から成る權。三羽船・保津船には10～12丁が備えられ、1人が權1本を操作する。推進用の權。	漁撈具～網付属具
さばさき	サバサキリ	ニシンの背肉部分を欠き裂くための先の鋭利な刃渡り15cm程の包丁。語源「鯖裂き」か「捌きマキリ」か？ 漁場では「サバサキリ」と呼ぶ。	加工用具～身欠ニシン製造具
さわり網	サワリ	さわり糸ともいう、太さ8号綿糸程の糸。驅網沖側の壁網に結付。ニシンが網に入ると、この糸を通しその振動が舳船で待機する人に伝わる。ニシンの乗網を探る糸。	(用途名) 漁撈具～網付属具
三半船	サンバ	主として日本海沿岸でニシン漁に使われた大型の漁船。三半船の特徴は舳が船べりより30～60cm程高く突き出ている。大正末期以降は舳が操業の邪魔になるので、この型の船は作られなくなった。	(船型名) 漁撈具～船
三本鋏	サンボンクワ	海浜整備の時の使用具。刃先が三本に別れた鋏。	漁場準備用具
下敷き	シタシキ	敷モッコとも呼ぶ。藁を縦4つに折り、突っ掛け状（スリッパ形）に作り、湿気を防ぐため白樺の皮（防水シート）を挟む。これに膝を入れ、尻にツブシ馬を当てツブシ作業をする。	加工用具～身欠ニシン製造具
しの	シノ	入子継ぎ（サツマを入れるという）の時、網の撚り目を広げる用具。	陸作業具
障子網	ショウジ	小型定地網などの網口（端口）から驅網内に向かって備えられ、魚を誘導する漏斗型の壁網。	漁撈具～網付属具
じょれん	ジョレン	海浜整備の時、砂や小砂利を掻き出す用具。	漁場準備用具
ジョンバー	ジョンバー	漁場施設・乾場・海岸などの雪切り作業に用いる、木製の除雪（雪はね）用具。	〃
白子なや	シラコナヤ	白子を乾燥するため、スタレを並べる木棚。杭・サキリで組み立てる。	陸設備
芯通し	シントオン	網通しともいい、魚粕を建詰めし、縄掛荷姿を作るとき、建の左右の木口面の中心から建内に縄を通す時の針。	製品出荷関係用具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
透し樽	スカシタル	切り込みニシンを作るとき、晒したニシンの水切りに使用。	加工用具～貯蔵具
筋木	スジギ	船の揚陸などにコロを使用するとき、砂にめり込むのを防ぐために敷く上下面を削って平（タイコ）にした雑木の細長い厚板。シキホともいう。	陸設備具
筋網	スジツナ	ちから網とも呼ぶ。特に強度を求められる網地の部分に網地に添わせて結付する網。枠網などに使用される。	漁撈具～網付属具
すしニシン樽	スシニシントル	糠漬ニシンを漬け込む樽。	加工用具～貯蔵具
スタレ	スタレ	カズノコの乾燥、白子・ササメの乾燥、製品の水切りなど多目的に使用された。	共通用具
滑り台	スベリ	浜に筋木をおき、その上に船に合わせた長さの半割小丸太（径25～30cm程度）材を置き、これに油を塗って船を滑らせて揚陸又は船出しする台木。	漁場準備用具
刷り板	スリバン	魚粕・筵・吠などに屋号・製品名を印する文字を切り抜いた亜鉛板。	製品出荷関係用具
せいろう	セイロ	セツを作るとき脚部となる小丸太で作られた木枠。径15～18cmの小丸太を井桁に組み、それを数段重ねた透し枠。中に石を入れて浜に固定する。	陸設備具
背負いモッコ	セオイモッコ	木製、背負い板（当板）背負い縄の付いた台形の背負い箱。ニシン沖揚の代表的器具。主として汲み船から廊下にニシンを運ぶ運搬具として又多目的に使用される。	運搬具～加工用具～共通用具
せき網	セキアミ	縄・網などの摩擦を防ぎ、強度を増す目的で巻き付ける古網。クッションの役目をする垂れ物。マット代りの盤ずれなどにも使用される。	（材料名・用途名）漁撈具～網付属具
設	セツ	設置の意。海岸に臨時の船付場又は、漁期中使用する棧橋を設置することをいう。脚部（イズコ・セイロ）・柱・桁・板などで組み立てられる。	陸設備具
瀬戸足	セドアシ	陶器製の沈子。中央部が管になりそれに網を通すタイコ型のもの。大きいもので径約8cm前後、長さ10cm前後。カベ足ともいう。	漁撈具～網付属具
芋	ソウ	糸の代名詞。網修理の糸を＝給理芋、網を仕立てる糸を＝カラミ芋、アバを結付する糸を＝アバ付芋などと呼ぶ。	（材料名）網～網付属具
台きりん	キリン	重量物を押し上げる時使用するジャッキ、螺旋状の上軸を廻して上下する。枠船・起し船などの台上げ・台おろしなどに使用。	漁場準備用具
大間縄	ダイケンナワ	中間縄よりやや太い径2～2.5cm程の2子撚りのワラ縄、中には3子撚りの物もある。土俵作り、樽結縄、浜設備工作に用いられた。	（材料名）漁撈具～網付属具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
台秤	ダイバカリ	製品の計量に使用。佐賀漁場では100kg計が備えられている。	加工用具～桧粕製造具
大八車	ダイハチクルマ	八人分の仕事をする意から呼ばれる木製2輪の荷物運搬用具。荷台の縁枠を延長して棍棒とし、その先に横木（握り棒）が取り付けられている。後にリヤカーに取って代わられた。	加工用具～運搬貯蔵具
たかま	タカマ	堅木で作った長さ30cm径1.5～2cm程の棒。磯船の小縁に穴が開けられた穴に挿し、これを車權の腕木の穴に通す。ここを支点として權を漕ぐ。	漁撈具～船付属具
立場板	タチバ	起し歩み板ともいい、網を操る（起す）ときこの上に漁夫が立ち並び作業をする足場板。起し船に取り付け固定されたものもある。	〃
建吊り鉤	チンチョ	魚粕を建蓮に詰めて計量するとき、建蓮に引き掛けて吊るす鉤。木の枝部分を利用して鉤とし、4ヶで1組を作る。タコとも呼ぶ。	加工用具～桧粕製造具
建縫針	タテヌイ	身欠ニシン・魚粕建・カズノコ・白子その他の製品を納める建を縫うに用いる。細竹の先端を鋭利に削り後端を割り繩を挟む。	共通用具
建蓮	タテムシロ	普通の蓮より大判の厚手の蓮。両端を中間繩で巻き縫い（からみ縫い）して俵状に作る。これをタテという。	加工用具～桧粕製造具
玉切り包丁	タマキリ ハウチョウ	魚粕玉を切断する包丁。1人用と2人用がある。粕玉は16分割し、蓮16枚に広げ乾燥するのが慣例であった。刃渡り約90cm程。	〃
だまこ	ダマコ	太目（2.4～3cm）のマニラロープで径約90～150cmの輪を作りセキ網を巻いたもの。役ダンプや根ダンプ又はテゴ先などの接続部に使用。	漁撈具～網付属具
玉台	ドブタ	ドウ板・ドブ板とも呼び、圧搾し搾筒から抜いた粕玉を置く台板。	加工用具～桧粕製造具
玉吊り	タマツリ	粕玉をのせた玉台を移動する時、玉台を吊る用具。小巾板と太い（8番線）針金やマニラロープで作られる。上部に棒を通し2～3人で担う。	〃
樽鉤	タルカギ	樽を担うときの吊り鉤。鉤を樽のタガにかけ2人で担う。	〃
たんぼ網	タンボアミ	網の大きな破れ（穴）を修理するため、同質の網地をはめてその穴を埋める。その穴を埋めるために用いる網地をいう。	（用途名）漁撈具～網
地這網	ゾンベツナ	陸側から沖に向かって張られる網。出船・入船・着岸のときこの網を手繰り、船を操作する。特に荒天時の着岸に威力を発揮した。定置網の伸し網を地這網と呼ぶ地方もある。	（用途名）陸設備具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
中間縄	チュウケンナワ	二子右撚りの径 1.5～2 cm程のワラ縄。手網・実子網の目通し、ワラ縄作成の素材、結束・荷作り・工作その他広く用いられた。	(材料名) 漁撈具～網付属具
チョイ網	チョイツナ	臨機応変に使用できる網として適宜の長さに切断し、片端を袋作りにした網。棹船・起し船などに数本を備えておく。	(用途名) 漁撈具～船付属具
蔓物鎌	ツタモノカマ	準備期における山採仕事で、ブドウやコクワの蔓を採取する、刃の厚い大型の鎌。	漁場準備用具
突掛網	ツッカケツナ	軀網沖側の中央部分の型網。役ダンプから胴張網に連結される掛網。まとも掛網ともいう。	(用途名) 漁撈具～船付属具
網	ツナ	原料繊維を引き揃えて必要な太さにし、一定の方向に撚りをかけて繊維を長く連結させる。それを更に数本撚り合わせて作ったものに、糸・縄・網の三種類がある。これらに判然とした区別はない。(伊吹群作著『漁網集覧』)	(材料名) 漁撈具～網付属具
網打用具	ギッチョ	中間縄数本(8～10本)を撚り合わせて太い網(ワラ網)を作る用具。	漁場準備用具
網打用具構成部品	ウマ	駒板を取り付け、移動可能な棹組の台。	〃
〃	コマ	撚りをかける用具。楢・榎・楓・樺などの堅木で作られたクランク状の器具。一端に縄を止める爪。別の一端はハンドルになる。	〃
〃	コマイタ	駒を取り付ける板。三子撚りは3個、四子撚り用の板は4個の穴があり、この穴に夫々駒の爪のある一端を通す。2枚1組。	〃
〃	タイコ	撚りをかけた夫々の単子を併せ、一本の網に組み立てる(単子を纏める)用具。	〃
〃	ヤグラ	三角錐形にサキリ材で組立て、これに駒及駒板を取り付け、馬と相対して固定し撚り掛けをする。	〃
つなぎつら	ツナギツラ	ツブシ終わったニシンをつなぐため、ワラ3～4本程を40cmの所で折り曲げ、そこを6～7cm撚ったもの。一本にニシン21尾をつなぐ。	加工用具～身欠ニシン製造具
網繰り	ツナグリ	船の小縁・舳部分に取り付け、繋船時又は曳行される時、網のガイドピンの役割を果たす当木。両端に取り付けるピンをスズメという(上貫抜ともいう)。	漁撈具～船付属具
ツブシ馬	ツブシウマ	尻当馬・腰掛馬などとも呼ぶ。ニシンツブシを担当する者は、膝を折った状態で長時間作業するため、足に体重がかからぬよう、この馬に尻をのせる。	加工用具～身欠ニシン製造具
鶴はし	ツルハシ	海浜整備時、堅い地盤を掘り起こす用具。両鶴・片鶴がある。	漁場準備用具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
手網	テアミ	垣網ともいう。陸側から沖に向かって張られ、この網の先に軀網（ニシンの入る網）が付く。手網はニシンを誘導する網。軀網口前から2～3枚までは綿網それ以下は妻子網を使うのが普通。網口から1枚目を1脇、2枚目を2脇といい、9枚～10枚が張られる。	漁撈具～網
手櫂	テゾリ	雪切り作業の雪捨てに、鎌焚き用の薪運びなど、漁場準備時の運搬具として使用した。	漁場準備用具～運搬具
鉄環	テツカン	沈子として使用する。環の径約10～15cm、太さ約2cmの鉄で作られ、口前網・足棚の沈子として用いられる。	漁撈具～網付属具
手間	テッコ	ニシンツブシ作業をする者の右側に2個並べておき、ニシンから取り出したカズノコ・シラコを分別して入れる30×30×30cm程の木製の箱。	加工用具～身欠ニシン製造具
鉄玉	テツダマ	網又は網の浮子として用いる径10～15cmの鉄の浮玉。中央に網を通すため管状の通穴がある。	漁撈具～網付属具
てば網	テンボ	網と網、網や浮子などに連結又は結付するため、網に取り付けられた網、又はその目的で作られた網。あるいは棚網の延長部分をいう。	(用途名) 漁撈具～網付属具
伝馬舟	テンマ	船型名。敷作り4枚側板(4枚はぎ)の小型舟。母船と陸の連絡、網の見回り・維持管理に使用する。	(船型名) 漁撈具～船
胴ニシン締台	ドウニシン シメダイ	胴ニシンを結束するとき、キリンで圧縮し1束2枚(約7.5kg)として荷姿を作る。その圧縮機。	製品出荷関係具
胴張網	ドウバリ	突掛網の索端から、口前伸網に至る張網。軀網中央を沖側から陸側に張る網。胴渡しともいう。	(用途名) 漁撈具～網付属具
土方モッコ	ドカタモッコ	ワラ縄を編んで作る120×120cm程の網の四隅に担い網を付けた運搬具。海浜整備の折、土や石を運ぶ。2人で担う。むしろで作ることもある。	(用途名) 漁撈具～設備用具
土俵	ドヒョウ	藁で作った俵に砂又は砂利を入れたもの。網型の固定に用いる。	漁撈具～網付属具
とも權	トモゲ	羽先・腕木からなる大型のサッカイ。大型和船のともに取り付け、船の進路を定め又は変向する權。ニシン漁場では主として船頭又は船の責任者が操る。	漁撈具～船付属具
トロッコ	トロッコ	軽便な軌道上を人力で押し走らせる鉄輪・木枠台の車。佐賀漁場では魚粕用のニシンを廊下から釜施設へ、粕玉を釜施設から乾場まで運ぶのに使用した。	加工用具～運搬貯蔵具
トロッコ構成部品	サシバコ	ワクバクともいい、台枠の上に据えおき、運搬物(ニシン)を入れる下面を広く作った箱。	〃
トロッコ構成部品	シャリンと ダイワク	鉄製。固定軸の車輪に木枠を取り付ける。	加工用具～運搬貯蔵具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
レール	マクラギ	軌道はそれを固定する枕木～角材で構成。	レール
トワイン	トワイン	麻の繊維を撚り合わせ、子を作らないで網又は糸にしたもの。	(材料名) 漁撈具～網付属具
納坪	ナツボ	ニシンを収納する施設。当地方では廊下が満杯になった時、臨時的補助的収納施設として作られる。通常は屋根が無く四囲を根曲がり竹や垂木などでスタレを作り囲う。	陸施設
納坪の構成材料	シキシ	スタレ状に編んだ根曲がり竹又は垂木材。これを敷簾と呼び、四囲の壁とする。	シキシ
ナツボクイ	ナツボクイ	柱材。径15～20cmの小丸太を使用。	ナツボクイ
ナツボケタ	ナツボケタ	柱間を継ぐ横材。径8～15cmのサキリ材を使用する。	ナツボケタ
縄	ナワ	原料繊維を引き揃えて必要な太さにし、一定の方向に撚りをかけて繊維を長く連結させる。それを更に数本撚り合わせて作ったものに、糸・縄・網の三種類がある。これらに判然とした区別はないが、構造の簡単なものを縄と呼んでいる。(伊吹群作者『漁網集覧』)	(材料名) 共通具
ニシン行成網	イキナリアミ	ニシン角網が考案されて後、全く使用されなくなったが、明治中期まで大網と称して使用された定置網。魚が入り易いが逃げ易く操作も複雑などの欠点があった。	漁撈具～網
ニシン搔棒	ニシンカキ	ニシンツブシ作業でツブス人の前のニシンが少なくなった時、ニシンを搔き寄せる鈎棒。木の幹部分を柄にし、枝を鈎に利用した。	加工用具～身欠ニシン製造具
ニシン角網	カクアミ	明治20年代道南地方で使用され遂時北上した。鱈角網を改良した定地網。軀網(胴網)と手網(垣網)で構成され、平面から見れば楕型、側面から見れば長方形。錨・土俵などで固定された型(台)に取り付ける。	漁撈具～網
ニシン籠	ニシンカゴ	ニシンの容器として、又沖売りの時の計量籠として使用した竹製楕円形の籠。1籠は約10斗(37.5kg)として計算した。	漁撈具～沖作業具
ニシン釜	ニシンガマ	魚粕を製造するとき、ニシンを煮る釜。径約140cm、深さ約60cmの深釜と、深さが約50cm程の平釜がある。	加工用具～魚粕製造具
ニシン釜 構成部品・付属品	エントウ	径15～20cm、長90cmのもの2～3本を継いで使用。古くは小丸太を立て紙を巻き粘土で周囲を固めて乾燥後、小丸太を抜いて煙道とした。	エントウ
ニシン釜 構成部品・付属品	カスベラ	搾筒に入れ盛り上がったニシンの上面を整えるヘラ。	加工用具～魚粕製造具
ニシン釜 構成部品・付属品	カマクチ	焚口ともいい、燃料に石炭が使用されるようになった昭和10年頃より使用された。	カマクチ

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
〃	カマシデ	ポントモともいい、煮上がったニシンを掬い搾筒に移す平たも。古くは木の枝を利用、幹部分を柄とし両側の枝を利用して輪を作り、それに網を張って使用した。	〃
〃	カマヒシャク	釜に水を加え又、減ずるに使用した、木製箱型の柄杓。箱の部分は約20×20cm、深さ20cm、柄の長さ約150cm。	〃
〃	カマハダケ	釜底に付いた焦げを掻き取るための鉄のへら。刃先巾約5～8cm、柄の長さ180cm程の丸棒。	〃
〃	カマベラ	巾約12～15cm、長さ約180cm程度のへら。釜の中のニシンの煮沸を平均にするため掻き混ぜる。主として早權の古いものを使用した。	〃
〃	カママエトビ	薪を取り扱うためのトビ。燃料が石炭になってからは使用されない。	〃
〃	カママエマサカリ	釜前オノとも呼ぶ薪割り斧。燃料が石炭になってからは使用されない。	〃
〃	ジュウノウ	主としてコンクリート練りのネリップを使用。釜の火（石炭）を燃やすための用具。	〃
〃	ヒカキ	釜の火を燃やすための用具。	〃
〃	ヒカマ	デレッキとも呼ぶ。釜の火を燃やすための用具。	〃
〃	フォーク	魚粕原料のニシンを取り扱うのに使用。原料ニシンをトロッコやモッコに入れる、又ニシン流し台のニシンを釜に入れるなどに使用。	〃
〃	ロストル	長90cm、太5×3cmの銑鉄角材、10本を連結して使用。燃料が石炭に変わると同時に使用された。	〃
ニシン箆	ニシンザル	沖揚作業時モッコにニシンを入れる、又沖売り（ツブ買船への生売り）の時、ニシン籠にニシンを入れる用具として使用。一人用と二人で扱うものがあった。ニシン汲み箆ともいう。	漁撈具～沖作業具
ニシン流し台	ニシンナガシ	魚粕を作る時、次に釜に入れるニシンを準備しておく箱。落とし板を抜くとニシンが釜の中に流れ落ちるように作っておく。魚粕玉1ヶ分のニシンが入る大きさ。	加工用具～魚粕製造具
ニシン箱	ニシンバコ	石油1斗缶2ヶが入る箱を10貫箱として利用したこともある。通常は8貫箱（30kg）が使用され生ニシンの売買に使用された。	共通用具
荷造り鉤	ニツクリカギ	魚粕建・身欠建などの他、胴ニシンの縄掛け（荷造り）作業の時、縄を引きやすいようS字型に作られた鉤。	製品出荷関係具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
担い桶	ニナイ	樽の上辺部に穴を明け吊り縄を通したものの又は、耳付桶（ツノ付樽ともいう）の耳の上部の穴に縄をつけたものがあり、その縄に天秤棒を通して担う。海水汲などに使用。	共通用具
荷役鉤	ニヤクカギ	俵物製品を担う（かつぐ）時、荷を押さえる鉤。	製品出荷関係具
ねぎお	ネギオ	ツタ物ともいうブドウ・コクワなどの蔓。役ダンブ・根ダンブ・マッケ・土俵などに広く使われた（環状に作ったものをタマ又はダマコと呼ぶ）。	漁撈具～網付属具
根固	ネコ	船の内舷に取り付けた、早緒・櫓羽などの止め木。根元を止める木の意。	漁撈具～船付属具
根ダンブ	ネダンブ	根網と掛け網又は上継ぎ網の堺に取り付ける、やや大型の浮代。8寸角×6尺（24cm角×180cm）。	漁撈具～網付属具
根網	ネツナ	網を固定するための型網を固定する、土俵・錨・マッケなどの沈子から掛網又は上継ぎ網に至る網。主としてワラ網が使用された。	（用途名）漁撈具～網付属具
練り櫓	ネリゲ	小型のさっかい、磯船や伝馬船のどもの櫓引縄を通して用いる推進用の櫓。又川崎船の舳部で補助的櫓としても用いる。	漁撈具～船付属具
伸し網	ノシ	胴張網に続く張り網、口前から建元浮標まで張られる幹網。地這網ともいう。	（用途名）漁撈具～網付属具
野間串	ノマガシ	長さ約25～30cmの木串。地面に藁を止める、藁と藁を連結する、覆い藁を止めるなど広い範囲で使用された。	共通用具
羽交学	ハカイソウ	網と網を接合するために網に取り付けられた八百の目を掬い、鎖状又は二本鎖編で結付する網又は糸。索端を引くと離脱するように結付する。	（用途名）漁撈具～網付属具
箱ガラス	ハコガラス	型及投網した網の状況を見る、海中の様子を鑑査するための水中透し箱。箱メガネとも云う。	漁撈具～沖作業具
八百	ハッピーク	網と網を接合するために網端に付けられる鎖状に編んだ網または糸。左右の網の八百（鎖状の目）を細いロープで絡んで結付する。	漁撈具～網付属具
浜板	ハマイタ	栈橋の床面を形成する板、又は砂浜に敷き並べて作業場とする等、浜で使用される板。	（用途名）漁撈具～陸設備具
早緒	ハヤオ	船の内舷に取り付けた100cm内外の網。この網の先端に縄の輪（口早緒）を付け、この輪を櫓の突起（スズメ）に掛けて櫓を操る。	漁撈具～船付属具
はやすけ	ハヤスケ	先端に木又は鉄の鉤が付いた竿。鉤部分で浮網や浮標を引き寄せ、竿部分で船の保持又は操作をする。	漁撈具～船付属具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
はやもの	ハヤモノ	船上で使う網、径1.5cm程度のマニラロープ。船のもやい網・張り網などに用いる。各船2本を備えていた（禁忌言葉で「猿」のこと）。	（用途名）漁撈具～船付属具
盤ずれ	バンズレ	船上で使用各種張り網の摩耗を防ぐための当て具。網や網その他を編んで作ったクッション。	漁撈具～船付属具
半田鍔	ハンダコテ	魚油を入れた缶の口を密閉するハンダを溶かす鍔。	加工用具～粕製造具
火籠	ヒカゴ	半田鍔を熱する炭火を起す鉄製のコンロ。火桶ともいう。	〃
曳き網	ヒキツナ	太めの強いマニラロープ。船の曳航に使用する網。	
袋網	フクロアミ	枠網を使用する程の量（漁）でない時に使用する袋状の網。袋淵を有する漁場では枠網を使用せず、専ら袋網を使用した。当地方では小袋ともいう。	漁撈具～網
二人モッコ	タナキモッコ	深さ約25cm、巾80cm、長さ120cmの箱の両側板を、妻板より前後に長く出しこれを把手とした運搬具。2人で前後を担う。	加工用具～運搬具
縁網	ブチアミ	一般にブチと呼ぶ。網の縁を補強するために取り付け。主地網より太い強い材料で編み、網目も主地網より大きい。	漁撈具～網
船型あば	フナアバ	軀網及手網の浮子として使用される巾約11cm、長さ30cm、中心の厚さ5cm程の主としてトド松で作られる。管アバに対して平アバとも呼ばれ、船の網越を滑らかにするため、中高に作られている。	漁撈具～網付属具
船鑑札	フナカンサツ	納税・登録の証としてニシン漁場で使用する。三半船・保津船に貼付した。	漁撈具～船付属具
振り分け棒	フリワケボウ	洗い鉤で運んだ身欠ニシンを掛ナヤのサキリに掛ける時、左右等分に振り分けるための細い丈夫な長さ約45cm程の棒。	加工用具～身欠ニシン製造具
へげ	アカカキ	船に入った海水を汲み出す木製シャベル型の器。	漁撈具～船付属具
保津船	ホツブネ	北海道西海岸のニシン漁に使用された大型の和船。ホツ船・ボツ船とも呼ばれた船型の呼称、枠船・起し船・汲み船として使用。大きさは使用年代によって異なるが、昭和年代における当地方のものは、長さ約35尺、巾10尺、深さ3尺程のものが使用された。	（船型名）漁撈具～船
ポンたも	ポンタモ	ポン＝アイヌ語で小さいの意。沖揚げ時、モッコにニシンを入れるに用いる。輪の径約30cm、柄の長さ180cm程度の浅いたも。	漁撈具～陸作業具
ポンポン	ポンポン	葎や吠、時には木製品などに屋号を捺印する用具。製品の等級標示にも使用された。	共通用具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
前繰り	マエグリ	海中に張った網を船上に引き上げ納める時、この車に掛けて船内に取り込む。船の前部に取り付けるので前繰りという。	漁撈具～船付属具
潤印	マジルシ	海岸近い陸に2個1組として設置され夜間の繰船目印として使用される灯火。	漁撈具～陸設備
またぶり	コマザライ	木製レーキ。魚粕乾燥の時藁に魚粕を広げる、又は乾場の清掃・海浜のゴミ集め・ササメ乾し等広く使用された。	共通用具
まっけ	マッケ	木製の錨。木の股・枝を利用し、横木（カンザシ）を取り付けこれに石に結付したもの。舟の碇・網の固定などに使用する。	漁撈具～網付属具
マニラロープ	マニラロープ	マニラ麻の繊維を撚り合わせ、子網3～4本を左撚りにした網。佐賀漁場では、3分（9mm）から1寸（30mm）の太さのものが多く使われている。	（材料名）漁撈具～網付属具
万棒	マンボウ	製品の積出し・生ニシンの販売時、数量の確認のために用いる。1～1000までの番号を印した小形の木片板。	加工用具～出荷関係具
軀網	ミアミ	胴網とも云う、ニシン角網の主要部分。手網に誘導されたニシンを受け入れる網。	漁撈具～網付属具
軀網を構成する各網	カベアミ	軀網の側面の網、楕形の軀網の壁となる網。総称して建揚網と云い、網のしもの方を尻しど立場、かみの方を魚取り立場という。	〃
〃	クチマエアミ	軀網の陸側中央部分に誘導されたニシンが入る口があり、そこに取り付けられる開閉自在の台型の網。前垂網とも云う。	〃
〃	サンカクアミ	口前網と手網の間隙を閉く網、形が三角形なので三角網という。	〃
〃	シキロ	敷廊とも云う。網の底になる部分、かみの建揚に連なる部分は特に丈夫に作られる。	〃
〃	セメ	小舌網ともいう。他の網地より強い素材で作られた、魚取り建揚に連なる敷廊部分。	〃
〃	タテアゲ	網に入ったニシンを枠網に追い落とす部分の壁網をいう。魚取り建揚ともいい、他の部分の壁網より丈夫な素材で作られている。	〃
身欠結束台	ミガキユイダイ	身欠ニシンの乾燥が終り、出荷するための結束をする時に用いる台。結束にはシナ皮を用い、身欠ニシン 100本を1把として結束する。	加工用具～身欠ニシン製造具
身欠ナヤ	ミガキナヤ	身欠ニシンを乾燥するための木架。ナヤ杭・ナヤ桁・サキリで構成する。高ナヤ（二段作り）と腰ナヤ（一段作り）がある。高ナヤの場合、裂き終わったものを上段に移して乾燥した。ニシンナヤともいう。	加工用具～身欠ニシン製造具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
身欠箱	スカシバコ	3・5・7分乾の身欠ニシンを出荷するときの透し作りの箱。	加工用具～出荷関係具
実子網	ミゴアミ	実子縄で作った網。主として垣網の3脇以降に使用された。	(材料名) 漁撈具～網
実子縄	ミゴナワ	二子と三子ものがあり、二子ものは手網のカラミ芋、三子ものは浮筋・アバ止め芋に使われる。稲の実のなる藁の部分を抜いて、細い縄に作ったもの。二子右撈りが普通。	(材料名) 漁撈具～網付属具
水波樽	カッポレ	船上に海水を汲み上げる時の樽。網の付いた小形の樽。	漁撈具～船付属具
耳芋	ミミソウ	耳糸ともいう。網の左右両端に目通し又は絡む補強のための糸。細い網・トワイン・20～30号綿糸などが使用された。	(用途名) 漁撈具～網付属具
無地網	ムジアミ	小型位置網などで使用された蚊帳地網。当地方では、小女子漁などに用いられた。	(材料名) 漁撈具～網
蕙	ムシロ	漁場では使用目的により、囲い蕙・干し蕙・覆い蕙・建蕙などと呼び、広い範囲で使用された。	共通用具
蕙モッコ	ムシロモッコ	ササメなど比較的軽いものを持ち運ぶための、タンカと同型の2人用モッコ。蕙の両側に小丸太を縄で絡み付け、その棒の先端を把手とする。	加工用具～運搬具
綿網	メンアミ	20番手の単子を撈り合わせて複子とし、これを数本撈り合わせた綿糸で作られた網。主として駆網・棹網・手網の一部に使用する。	(材料名) 漁撈具～網
綿糸	メンシ	綿を原料とし、20番手の単子を撈り合わせて複子とし、これを数本撈り合わせた糸。複子が何本の単子を合わせてあるかによって、号数が異なる。(伊吹群作/『漁網集覧』)	(材料名) 漁撈具～網付属具
屋形	ヤカタ	起し船・棹船が沖泊まりの時、船上に坪み小屋形の板小屋を組み仮泊する。この小屋を屋形という。	漁撈具～船付属具
屋形の構成部分品	オトコバシラ	柱木とも呼ぶ。柱木を取り付けるための穴は船に鑿装されている。柱木は厚い小巾板又は又木を用いる。小巾板の場合は上端をV型に切り込んである。	〃
〃	ストーブ	明治・大正年代は屋形を作る場所の中央に塩を6程の厚さに敷き、その上に粘土15～20程を叩き伸ばし、これをいろいろとして暖を取ったが、昭和年代になってストーブが使われた。佐賀漁場では、大正15年の用具調帳に沖泊まり用ストーブが記されている。	〃
〃	ツマキ	棟木から舷に斜めに取付ける垂木。屋根を作るための棒を通すよう、数ヶ所に網で輪が作られている。	漁撈具～船付属具
屋形の構成部分品	ムネケタ	屋形の棟になるサキリ材。寸法を定めて切り、船に準備しておく。	漁撈具～船付属具

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
〃	ヤネケタ	妻木に作られた網の輪に、樫を通して屋根桁とする。サキリを使用する漁場もある。	〃
〃	ヤネシート	昭和10年頃から屋根用防水シートを使うところもあり佐賀漁場では昭和12年には使用されていた。	〃
〃	ヤネムシロ	屋根は葦を掛ける。風で飛ばされぬ様、古網をかけ野間櫛で止める。	〃
焼印	ヤキイン	漁場名や屋号を焼刻する印。漁場では濡れても消えないよう、木製品にはすべて焼印で屋号などを印する。	その他～陸設備用具
焼き錐	ヤキギリ	浮標・浮代などに縄を通す穴を穿つとき、錐での穴明け後仕上げ（穴を滑らかにするため）に焼いた錐を通す。	その他～漁場準備用具
役ダンブ	ヤクダンブ	型網と掛網の継ぎ目に取り付ける、1.2尺角×9尺（36×270cm）の大型の浮代。	漁撈具～網付属具
やさ鉤	ヤサカギ	ヤサカギ・ヤンサカギ・ヤシャカギなどと呼び、大たもを揚げる時、又たもの中のニシンを出す時たも網に鉤部分を掛けて、たもの操作を助ける。	漁撈具～沖作業具
矢来	ヤライ	漁場の防波壁として又海岸の浸蝕防止柵として、径15～20cmの小丸太を連続埋設したものを云う。	その他～陸設備用具
結い皮	シナカワ	身欠ニシンを結束する木皮。主としてシナの木の皮やオヒョウニレの皮が使用された。	（材料名）加工用具～身欠ニシン製造具
指袋	ユビコ	綿布2～3枚を重ねて刺し縫いしたものを指に合わせて袋状にし、糸で連結して親指・人差指・中指にはめて、ニシンツブシの時指を保護する袋。	加工用具～身欠ニシン製造具
揚水ポンプ	ミズアゲポンプ	魚粕製造の釜炊作業や、カズノコ製造に必要な海水を汲み上げる。	〃
横槌	ヨコツチ	ワラ工作の時、ワラを柔らかくするためのワラ打ち用具。	着業準備具
流送環	チンチョ	漁場で使用する丸太材などを船で曳航運搬する時網を取付け、又は材を連結するために打ち込む環。	漁場準備用具
櫓	ロ	羽先・腕木・櫓皿・スズメから成り立つ船の推進具。船床の櫓軸に櫓皿を合わせ、船に取り付けた早緒の先端をスズメに掛けて漕ぐ。	漁撈具～船付属具
櫓羽	ロウバ	櫓軸を取り付けた逆L字型の櫓床。木の枝を利用して作ることが多い。これを船に取り付けた根固に差して船に取り付ける。	〃
櫓皿	ロザラ	櫓のやや中央部（羽先の元部分）に取り付ける、くぼみのある木片。このくぼんだ所に櫓軸を合わせて支点とする。	櫓付属具
櫓軸	ロジク	櫓の支点となる軸。	〃

標準的呼称	漁場での呼称	説明	備考
棹網	ワクアミ	棹船に吊り下げ網に入ったニシンをこの棹網に落とし入れて保留する袋状の強固な網。大きいものでは約 300石（約22.5 t）のニシンを収容することができる。	漁撈具～網
棹絡み網	ワクカラミ	棹船の棹桁に棹網を絡み取り付ける網。マニラロープ及アバ縄が使用された。長さ約 5 m、太さ1.5cm の網。	(用途名) 漁撈具～沖作業具
棹船	ワクフネ	用途名、棹網を吊る浮力の強い船。網たき船とも呼ぶ、やや大型（35尺×10尺×3尺程度）の船。船尾部・軸部を盤張りにし、船尾に棹網を積む。内舷上部に棹を吊るための棹桁が取り付けられている。	(用途名) 漁撈具～船
わっかんべ	ワッカンベ	網と網を接続し伸張するための、木製の環状の浮子。浜では環状のものをこのように呼び、縄・網の索端を環状にしたものを袋と呼ぶ。	漁撈具～網付属具
鰐口	ワニグチ	張り網、手操網を誘導するための木製の器。曲木を利用、その両端に網を付け船の貫抜又は網繰りに結付して用いる。	漁撈具～船付属具
藁網	ワラヅナ	中間縄 2～3 本を子とし、3 子又は 4 子を撚って作る、径約 4～6 cm のワラの網。根網・垣網・足棚などに使用した。	(材料名) 漁撈具～網付属具